



はこべら

おかえり 東っ子!



台風の接近により、二日に短縮された登校日を経て、本日から二学期が始まりました。子供たちを見てみると、学校

が始まることを心待ちにしていた様子の子、生活のリズムを取り戻せず少し元気がない様子の子と様々です。

二学期は、宿泊学習、修学旅行、はこべら祭り、研究発表会と大きな行事が続きます。年度始めから、子供たちに求めている。

自分で考える 自分で決める

自分たちで考える 自分たちで決める

を実現できるチャンスです。失敗を恐れず、チャレンジさせていきたいと思っています。学校を楽しくするのも、元気になるのも、よくするのでも子供たちが自身です。

始業式では、東小の合言葉「響かせよう 響き合おう」を確認しました。響かせ、響き合わせるの「声」と「心」です。

わたしは、子供たちに、
・ 声が出せる子になってほしい。
・ 自分の考えや気持ちを自分の言葉で話せる子になってほしい。

・ 周りの人の気持ちを感じたり、気付いたりして、響き合える子になってほしい。
と願っています

声を響かせる

そのために、「あいさつ」「返事」はこれまで以上に求め、徹底していきます。加えて、理由や根拠を添えて、話ができるよう指導、支援していきます。ご家庭でも、子供たちが話す機会を大切にしてください。子供たちが話す機会を奪うことなく、時間がかかってもしっかりと話をさせ、聴くことを心がけていただければと思います。

心を響き合わせる

周りの人の気持ちや願いを感じて、響き合える子になってほしい。「いいねー!」「しょーやろー!」「おいでー!」だいたいぶー!「子供たちの一生懸命や頑張り、やさしさが響き合っていけば、東小は今よりもっと優しく、元気で居心地の良い学校になると信じています。

家庭と地域、学校が思いを一つにして、子供たちに関わっていきましょう。よろしくお願いします。

祝!「あいさつ」

PTA総会や学校だより等で、学校と家庭が連携して「あいさつとはきもの並べ」に取り組むことをお願いしてきました。学校評価アンケート(保護者)で、ここ数年、あいさつは「2.9」「はきもの並べは「2.5」の壁が破れずにいることもお伝えしたと思います。

そこで、学校では、一学期はこれまで以上に、この二点について取り組んできました。また同時に、「ご家庭でも意識を高め、取り組んでいただきました。

その結果、七月にご協力いただいた学校評価アンケート(保護者)では、はきもの並べは「2.5」と変わりましたが、あいさつは、ようやく「2.9」の壁を越え「3.1」という評価でした。保護者の皆様にご協力いただいた成果が、少しずつ出てきました。「あいさつ」や「はきもの並べ」は、子供たちの生活習慣のほんの一部でしかありません。しかし、一事が万事。些細なことが徹底できなければ、全ての改善につながりません。今後も、「あいさつ」と「はきもの並べ」を糸口に、子供たちの育ちを共により良い方向へ導いていきましょう。十二月の評価のときには、「はきもの並べ」も向上させ、一緒に伸びを喜ぶことができればと願っています。

◇家族全員で「当たりのあいさつ」を意識して取り組みましょう。まずは、大人から!

◇「はきもの並べ」は、「三秒の気遣い」「やった」「やっていな」がはっきかわかります。しっかりと評価し、褒めたり、やり直しをさせたりして、習慣にさせましょう。

お知らせ

なのはな六組担任の「塩見 有紗先生」が、九月三日から産休に入ります。これに伴い、本日から「楠本 紗菜先生」が着任しました。どうぞよろしくお願います。

全国学力学習状況調査の結果から

四月に実施した全国学力学習状況調査の結果が発表されましたので、お知らせします。六年生には、今週中に、個人の結果を配付します。

国語	平均正答率	中央値	標準偏差
東小	76	11	2.2
全国	67.7	10	3.1

算数	平均正答率	中央値	標準偏差
東小	71	12	2.9
全国	63.4	11	3.9

東小学校の状況をお伝えすると、国語、算数ともに全国平均を大きく上回りました。また、散らばりを示す標準偏差は全国より小さく偏りがあまりないことを示しています。これらのことから、東小の六年生は、児童間の学力差が小さく、学習内容は平均に比べ高いレベルで理解されていると考えられます。さらに領域や設問と、細かく見ていっても全国を下回るものはありませんでした。しかし、国語科では「自分の考え方が伝わるように表現を工夫すること」や「漢字の書き取り」、算数科では「図形」や「データの読み取り」等の正答率が低く、課題が見られました。六年生については、残りの七か月で課題改善に取り組み、中学校でも生きる基礎と活用を身に付けさせていきます。また、他学年についても同様に、授業と家庭学習の充実を図り、さらなる学力向上を図っていききたいと思います。

児童質問紙調査の回答状況もお知らせします。全国に比べ肯定的回答の割合が大きかった質問項目と小さかった項目を左に示しています。

プラス傾向の質問項目

- 人が困っているときは、進んで助けていますか
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
- ICTの活用
- 5年生までに受けた授業
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- 授業や学校生活では、友達やまわりの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか

マイナス傾向の質問項目

- 自己肯定感に関すること
- 心の開放に関すること

東小の六年生は、生活習慣及び学習習慣は概ね良好で、学校での学習に対する満足感、教師の関りやサポートに対する満足感が高い傾向にありました。また、思いやりの気持ちも育っています。しかし、その反面、自己肯定感、心の開放に課題をもつ児童が全国の傾向に比べ高い傾向にありました。

これは六年生に対する調査ですが、最高学年である六年生の傾向は全ての学年に通じるものだと考えています。そこで、二学期に向け、次のことに取り組んでいくことを職員で確認しました。

◇「自信をもたせる」「心を開く」

- 「できる、頑張る」は当たり前ではない
- 「これまで以上に」、子供たちの「力」成長「頑張る」に気付き、認める
- 子供たちに「ありがとう」の言葉を浴びせる（ありがとうのシャワー）
- 自分（たち）で考える、自分（たち）で決める「を強化
- 子供たちの気持ちを聴く（傾聴）、引き出すことを意識する。

◇「心」と「声」を響かせ、響き合わせる

- 声が出せる子供を育てる。
- 自分の気持ちや考えを自分の言葉で発言できる子供を育てる。
- 周りの人々の気持ちを感じ、響き合える子供を育てる。
- そのために、
- 成長を信じ、子供たちに「響かせよう 響き合おう」の姿を求めたい。
- 子供たちの実態をつかみ、変化や成長を捉える。
- 心や声を響かせる機会を意図的につくる。
- 子供たちが考え、自分のことばで表現する授業を仕組む。
- 「根拠」を問うことで、子供たちの思考の質を高める。

◇「あいさつ」と「はきもの並べ」の徹底